

## ～Program～

### J.S.バッハ (1685-1750)

#### 平均律クラヴィーア曲集第1巻より 第3番嬰ハ長調 BWV848

2巻からなる＜平均律クラヴィーア曲集＞は、バッハの時代に発達した「平均律」などの調律法によって演奏が可能となるすべての調性を網羅した、各々24のプレリュードとフーガからなる。その芸術的価値はピアノ音楽の「旧約聖書」とも呼ばれ、文字通りすべてのピアニストのバイブルとなっている。この嬰ハ長調という特殊な調性のプレリュードに、バッハはきらめくような軽やかな楽想を与えた。3声のフーガは飛び跳ねるような快活な主題による。

### F.ショパン (1810-1849)

#### 幻想即興曲嬰ハ短調 Op.66

ショパンの4曲の即興曲の中で、＜第1番＞と並んで最もポピュラーなこの＜幻想即興曲＞は、4曲中もっとも早く書かれた曲で、ショパン24歳の作。しかし当時人気のピアニスト、モシュレスの曲とあまりにも似ていたために、ショパンはこれを出版しなかったといわれている。死後の1855年に初めて出版され、「幻想」のタイトルはその時に付けられた。アレグロ・アダルトによる急速な音型の交叉が、幻想的な効果を発揮する。

### L.V.ベートーヴェン (1770-1827)

#### ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 作品110

ベートーヴェンの32曲のピアノ・ソナタの最後を飾る「後期三大ソナタ」には、宗教的とも呼べるような作曲家晩年の精神的境地が結実している。この＜第31番＞はその2曲目にあたる一曲。美しい抒情をつむいで幻想的な世界を現出させる後期の作風、それは洗練された旋律書法に特徴的に表れており、また、全曲を統一する有機的な構成法にも隙がない。

第1楽章 モデラート・カンタービレ・モルト・エスプレッシヴォ

第2楽章 アレグロ・モルト (スケルツォ楽章)

第3楽章 アダージョ・マ・ノン・トロポ (序奏部) — アリオソ・ドレンテ (嘆きの歌)  
— アレグロ・マ・ノン・トロポ (フーガ)

### J.S.バッハ (1685-1750) / F.ブゾーニ (1866-1924) 編

#### シャコンヌ

ヴィルトゥオーソ・ピアニストとしての活躍のみならず、多方面で功績を残したフェルッチョ・ブゾーニの数多いバッハ作品の編曲の中で、もっとも頻りに演奏される一曲。原曲は、不滅の傑作＜無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ＞(全6曲)の核心をなす曲であると同時に、バッハの全作品中の傑作にも数えられる名曲だ。シャコンヌとは古い舞曲のひとつで、低音の和声定型を何度も繰り返しながら、各々の繰り返しの上に変奏を築き上げていくもの。バッハのこの壮麗雄大なシャコンヌは、4小節の定型をもとに主題と30の変奏で構成される。

\*\*\* 休憩 (20分) \*\*\*

### M.ラヴェル (1875-1937)

#### 水の戯れ

音楽史上初の印象主義による作品としてあまりにも名高い。この作品が書かれた1901年は、17歳年長のドビュッシーが初めての本格的印象主義の作品、＜版画＞(1903年)を作曲する2年前にあたる。＜水の戯れ＞はリストの＜エステ荘の噴水＞の影響を受けているといわれるが、水の様態を完璧に写し取っているとも評されるその書法の緻密さは、「スイスの時計職人」の異名をとるラヴェルならではのものだ。

### M.ラヴェル (1875-1937)

#### 亡き王女のためのパヴァーヌ

ラヴェルがパリ音楽院在学中の1899年にピアノのために作曲したこの作品は、作曲者自身によるピロードのようなオーケストラ編曲でも広く親しまれている。パヴァーヌとはスペインに起源をもつ宮廷舞曲。ラヴェルはルーヴル美術館にあるベラスケスのスペイン皇女の肖像画に靈感を得て、この曲を書いたという。

### M. ムソルグスキー (1838-1881) / ホロヴィッツ編 展覧会の絵

ラヴェルのオーケストラ編曲で一挙に人気曲の座に押し上げられたムソルグスキーの代表作。ロシア五人組の一人として活躍しながらも、生前は作曲家としてほとんど認められることなく、失意のうちに世を去ったムソルグスキー。35歳の若さで急死した親友の建築家・画家、ヴィクトル・ハルトマンの遺作展を見たときの強烈なインスピレーションをもとに作曲されたこのピアノ組曲は、10曲の小品からなり、各曲にはタイトルとしてハルトマンの絵の名前が付けられている。奔放で野性的、そして何よりピアノ音楽としては特異なまでの、交響的広がりをもつ一大傑作である。今回は巨匠ホロヴィッツの華麗な演奏スタイルが加味された編曲版で演奏される。

＜プロムナード＞

第1曲「グノームス」

＜プロムナード＞

第2曲「古城」

＜プロムナード＞

第3曲「テュイルリー」

第4曲「ブイドロ」

＜プロムナード＞

第5曲「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」

第6曲「サムエル・ゴールドデンベルクとシュムイル」

＜プロムナード＞

第7曲「リモージュの市場」

第8曲「カタコンブ — ローマ時代の墓」

第9曲「にわたりの足の上に建っている小屋 (バーバ・ヤーガ)」

第10曲「キエフの大門 (古都キエフにて)」

柿沼 唯 (作曲家)